



とくしま自然観察の会

1994年4月設立。自然観察会をとおして身近な自然を見直すための活動をしています。吉野川河口干潟や汽水域の生物多様性の価値、吉野川河口に続く小松海岸など砂浜や沿岸域の保全の大切さを伝えるために、観察会、専門家と連携しながらの市民調査『吉野川しおまねぎ探検隊』、シオマネキ等干潟の生物の生息環境を守るための清掃活動、こども園や学校へ動画上映など干潟の出前お話し会、環境学習の応援、『しおまねぎコンサート』や『しおまねぎ寄席』、展覧会、人形劇、エコツアー、干潟塾、フォーラムなどを開いてきました。

また、こどもたちや一人でも多くの人々に川、海、ひとの暮らしのつながりや干潟の生きものの魅力をわかりやすく伝え、多様なかたちで楽しく一緒に活動する『吉野川ひがたファンクラブ』の呼びかけもしています。自然豊かな吉野川河口を未来にひきつぐために、吉野川河口のラムサール条約湿地登録をめざしています。

吉野川河口干潟の清掃活動の詳細はホームページでご確認ください

●とくしま自然観察の会

<https://shiomaneki.net>

〒770-0944徳島市南昭和町3-19-1

Tel & Fax: 088-623-6783

Email: kansatsunokai@gmail.com

●吉野川ひがたファンクラブ



このリーフレットは、日垂ふるさと振興財団の活動助成金によって作成されました

写真提供/和田太一、浜井芳明、幸田青滋

四国三郎と称される大河川の吉野川は、長大な河口域を擁し、大河川河口部に特有の軟泥の干潟と塩生植物群落のヨシ原がセットになった一面をもっています。海水から淡水までの幅広い塩分濃度条件と潮間帯下部から潮上帯の植生域までの幅広い地盤高条件が、多種多様な生き物を育んできました。多くの鳥類が干潟やヨシ原を利用し、豊富な底生生物が住みついていきます。回避性の魚類ナギやアユにオナネキでは、巣穴そのものは破壊されなくとも、巣外活動ができなくなり、摂餌活動や繁殖活動(雌雄間の配偶行動)が阻害されてしまっています。実際吉野川以外の河口の河口域において、このような大量の流下物がヨシ原を被覆したことで、シオマネキの生息数が減少したことが知られています。またヨシが広範囲におおわれて流下物によって破壊されるとその影響が波及的に広がり、ヨシ原そのものが消失することもあります。これもまたある河口の河口域で知られていることです。このほかヨシの消失はシオマネキのような底生生物のみならず、鳥類や魚類などの利用場所をも奪うことにもなっています。近年国内では水害が頻発し、吉野川でも大水害に見舞われることが増えてきました。河川の増水により、陸域から大量の土砂や流木、ゴミが河口域に流れ込み、そこに堆積することにより、河口域の生物多様性を守る上で極めて重要なことだと言えるでしょう。

シオマネキの生息地を守ろう。吉野川干潟のクリーンアップ! 最近、大型化する台風によって、プラスチックゴミ、流木、ヨシ片などが大量に、吉野川河口の干潟に流れつき、干潟の生物の生息を脅かしています。吉野川干潟のクリーンアップは、環境省トリリストにおいて絶滅危惧II類に指定されているシオマネキが生息するヨシ原に大量に堆積したゴミを撤去して、干潟の生きものの安全な生息場所を守る活動です。漂着ゴミ(缶、ペットボトル、流木など)を清掃して、貴重な河口干潟の環境を保全します。

シオマネキは、河口汽水域が健全である指標生物と云われており、吉野川の元気バロメーターになっています。特に住吉干潟は吉野川河口で一番シオマネキが多いところ。私たちと一緒に、水辺において、干潟の生きものたちの生息地を守るために、清掃や調査に汗を流しながら、吉野川の風景や河口干潟の豊かな生物多様性を体感してみませんか。ひとの暮らしとゴミ、そして川や海との環境保全を考える機会にしましょう。

みんなの宝物・吉野川を見守っていきましょう。



吉野川河口域のヨシ原の価値
和田恵次(奈良女子大学名誉教授)



青ガニ(シオマネキの稚ガニ)



アリアケモドキ



セッカ



トビハゼ



ウモレメガニ



オキアサリ(ハタビ)



ハマシギ(夏羽)



ミサゴとボラ



ハクセンシオマネキ



クシテガニ



シオマネキ・メス(左)、オス(右)

次世代に伝えたい吉野川

吉野川河口の干潟は、四国の真ん中の森から、人々の暮らす町を通り、様々な営みを支え、194kmの道のりをゆっくりと流れてきて海に出会うところです。

河口から第十堰までの14.5kmにわたる汽水域は、日本の河口本来の姿を残しており、時には暴れることもありましたが、歴史的にも流域の自然や人々の営みと共生してきた風情豊かな川です。

吉野川の風景は徳島の人々にとって、ふるさとの原風景です。景色に癒される人、漁をする人、散歩する人、干潟の生物や渡り鳥にわくわくする人。人を含めた吉野川の多様性をそのまま次世代に伝えたいですね。



吉野川河口には、いろいろな干潟が点在しています。特に広大な河口干潟は貴重です。

吉野川河口干潟へ行こう!!

- ※JR 徳島駅から車で約10分
- ※住吉ひがた河川敷には駐車スペースがあります。
- ※シオマネキなどの観察期間は4月～10月。昼間の干潮時刻の前後2時間が見頃です。



ズグロカモメ



ヒロクチカノコ



フトヘナタリ(左)、カワアイ(右)



コメツキガニ



ヤマトオサガニ

ラムサール湿地を目指して

吉野川河口干潟は、1996年3月に「東アジア・オーストラリア地域フライウェイネットワークにおけるシギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」に日本で最初に参加し、環境省の重要湿地にも選定されています。2010年9月には、ラムサール条約の国際基準を満たす湿地として、環境省による条約潜在候補地になっています。

私たちは、湿地の賢明な利用(保全)を理念とするラムサール条約湿地に登録して、国と自治体と徳島のみんなと一緒に吉野川の環境を守ることを目指しています。



ウモレベンケイガニ



ダイゼン



チゴガニ



アナジャコの仲間



ハウロクシギ